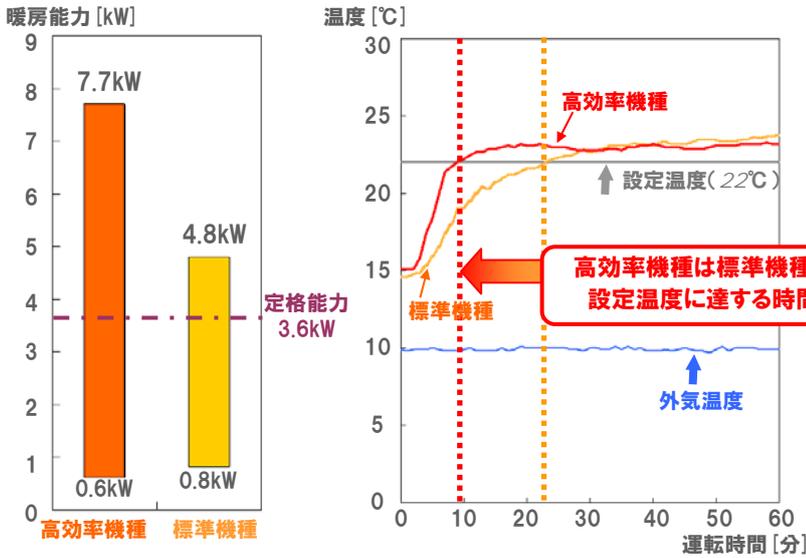


<試験①> 設定温度に到達する時間の比較(暖房時)



【試験期間】 2006年4月

【実施箇所】 東京電力 技術開発研究所

【試験機種】 高効率機種: CS-286XB COP6.31 APF6.3
標準機種: CS-286SB COP4.92 APF5.3
なお、2機種は同一メーカーかつ定格冷房能力のエアコン(松下電器産業(株)(現 パナソニック(株)))
2006年製、定格能力は3.6kW)

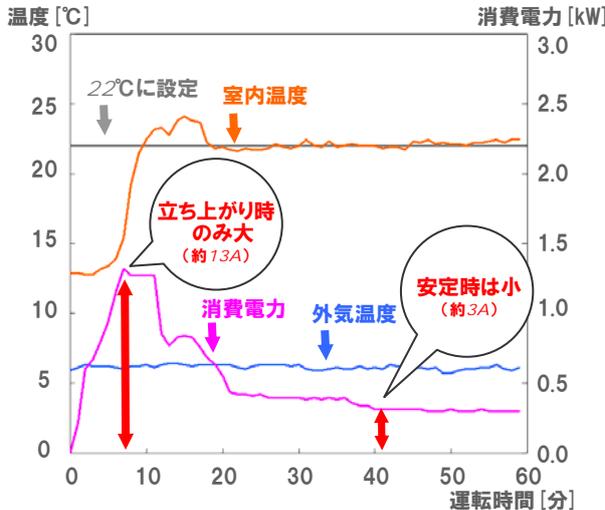
【試験条件】 2棟の住宅実験棟の2階の部屋(12畳)を使用し、それぞれの部屋に設置した高効率機種と標準機種を同時に暖房運転させた。
温度は、部屋中央の床上0.1m、0.6m、1.1m、1.7mと床表面、天井表面の6ポイントの加重平均値
エアコンの設定温度は22°C、風量・風向は自動とした。
(試験時間帯の初期外気温は9.9°C)

【住宅実験棟】次世代省エネ基準を満たす2階建住宅
(Q値:2.4W/m²K C値:5.0cm²/m²)

※定格能力とはエアコンの能力の代表値です。

エアコンの高効率機種と標準機種は、暖房の立ち上がりに大きな違いがあり、標準機種に比べて、高効率機種は設定温度に達する時間が早い。

<試験②> エアコン立ち上がり時～安定時までの消費電力の推移(暖房時)



【試験期間】 2010年2月

【実施箇所】 東京電力 技術開発研究所

【試験機種】 三菱電機2006年製 MSZ-ZW22T APF5.90
(定格能力は冷房:2.2kW、暖房:2.5kW、定格消費電力は冷房:365W、暖房:410W)

【試験条件】 住宅実験棟の2階の部屋(6畳)を使用し暖房運転させた。
部屋中央の床上110cmの温度をT型熱電対で計測した。
エアコンの設定温度は22°C、風量・風向は自動とした。
(試験時間帯の初期外気温は5.9°C)

【住宅実験棟】次世代省エネ基準を満たす2階建住宅
(Q値:2.4W/m²K C値:5.0cm²/m²)

【6畳用のエアコンの消費電力(実測値)】

設定温度に達する前の最大消費電力	約1.320W
設定温度に達した後の消費電力	約0.300W

※ 定格能力とはエアコンの能力の代表値です。

※電力が安定するまでの時間は、住宅性能等の条件によって異なります

※アンペア数は100Wで1A(アンペア)

エアコンは、運転開始時には大きな能力で短時間のうちに設定温度まで暖房し、その後は小さな能力で安定した運転をすることで室温を一定に保つ。

特に使用頻度の高い部屋には、暖房能力幅の大きい高効率機種がおすすめ。